

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成26年度から「高大連携重点型」工科高校として再出発し、「工学系・大学進学専科」を1クラス設置した。さらに、令和2年度入学生からは、工科高校のさらなる魅力づくりを踏まえ、学習内容の充実を図るとともに、1クラス35人編成による一層きめ細かな指導を行っている。

本校がこれまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、スローガン（標語）である「生徒が主役！一生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現」を掲げ、ものづくり人材の育成を図るため、育成する生徒像を以下に示す。

- 1 ものづくりに興味・関心をもち、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用できる生徒。
- 2 自ら課題を見付け出し、思考力・判断力・表現力等を駆使し、チームワークで解決を図ることができる生徒。
- 3 工業人として高い倫理観と責任感をもち、生涯にわたって人間性の向上に努め、社会や人生に学びを生かそうとする生徒。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と授業改善

(1) 基礎的・基本的な学力の定着とともに、授業の質の向上のため学習意欲の喚起を促すPDCAサイクルを行い授業改善を図る。

ア 生徒の実態を把握し、ICTを効果的に取り入れて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。

イ 英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）をバランス良く指導し、国際的な視野を有する技術者を育成する。

ウ 教員の授業力向上のため、教員・保護者の授業見学や研究授業を行い、授業改善の取組みを推進する。

エ 家庭学習の定着と、読書活動を推進できるように学校図書館機能の充実を図る。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業の工夫等」を、令和6年度には60%以上にする（R1:47.2%、R2:55.9%、R3:53.7%）。

[H29～R3平均52.0%]

※ 外部学力調査における生徒（1年生）の3教科（国数英）平均合計210点以上を確認して指導にあたる（R1:209.5点、R2:211.5点、R3:215.9点）。

[H29～R3平均212.7点]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「ICT機器を活用した授業」を、令和6年度には73%以上にする（R1:50.0%、R2:63.9%、R3:69.0%）。[H29～R3平均57.0%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「1人1台端末の効果的な活用」を令和6年度には70%以上にする

※ 学校教育自己診断（生徒）の「家庭学習者の増加」を、令和6年度には25%以上にする（R1:23.0%、R2:19.7%、R3:19.1%）。[H29～R3平均21.9%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「図書館機能の充実」を、令和6年度には65%以上にする（R1:63.5%、R2:65.5%、R3:60.5%）。[H29～R3平均61.4%]

(2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。

ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア・パスポートの活用も含めてキャリア教育・職業教育の充実を図る。

イ 生徒が様々な資格に挑戦できるよう日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。

※ インターンシップ参加者を、令和6年度には35名以上にする（R1:35名、R2:コロナ禍で実施せず、R3:コロナ禍で実施せず）。[H29～R1平均36.3名]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「実習授業満足度」を、令和6年度には77%以上にする（R1:71.0%、R2:77.4%、R3:75.5%）。[H29～R3平均74.7%]

※ 資格取得を推奨し、全国工業高等学校長協会（全工協会）で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、特別[T]・ゴールド[G]・シルバー[S]・ブロンズ[B:H30から制度化]の取得者を、令和6年度には5年間の平均以上にする（R1:G3・S5・B4、R2:T2・G2・S4・B6、R3:T0・G1・S9・B0）。[H29～R3平均T1・G3・S6・B3]

2 夢と志をもつ生徒の育成

(1) 豊かでたくましい人間性の育成。

ア あらゆる教育活動における人権教育と、生徒の発達段階に応じた学年別人権教育の充実を図る。

イ いじめ対応や支援教育の充実のために教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。

ウ 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、遅刻件数や問題行動の防止・転退学率の減少に努める。

エ 部活動加入を推奨し、「部活動に係る活動方針」に則った活動と、環境整備や安全対策の強化を図る。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「人権教育等の充実度」を、令和6年度には53%以上にする（R1:55.5%、R2:52.5%、R3:42.5%）。[H29～R3平均50.3%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「いじめ相談対応」を、令和6年度には55%以上にする（R1:50.0%、R2:48.7%、R3:46.6%）。[R1～R3平均48.4%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「制服や頭髪等のルール・マナー厳守」を、令和6年度には75%以上にする（R1:66.0%、R2:71.9%、R3:67.0%）。[H29～R3平均67.4%]

※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業スマホ等のマナー」を、令和6年度には70%以上にする（R1:56.5%、R2:70.5%、R3:61.9%）。[H29～R3平均59.1%]

※ 遅刻件数を、令和6年度には2200件以下にする（R1:2,750件、R2:2,139件、R3:2739件。[H29～R3平均2931件]

※ 問題行動指導を、令和6年度には件数を一桁にする（R1:21件・32名、R2:9件・9名、R3:13件。H29～R3平均12件・21名]

※ 転退学率を、令和6年度には1.8%以下にする（R1:2.42% [転学1.21%、退学1.21%]、R2:1.46% [転学0.73%、退学0.73%]、R3:1.79% [転学1.24%、退学0.55%]）。[H29～R3平均1.88% [転学1.00%、退学0.88%]]

※ 部活動加入率を、令和6年度には69%以上にする（R1:62.4%、R2:68.7%、R3:67.4%）。[H29～R3平均66.0%]

(2) 生徒の自己実現に向けた支援を図る。

ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。

イ 就職・進学希望者等の多様な進路希望の実現を図るため、きめ細かな進路指導を行う。

ウ 卒業3年後の離職率調査を実施し、就職指導に生かす。

エ 大学進学者への学習状況調査を実施し、進学指導に生かす。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「進路に関する行事の充実」を、令和6年度には75%以上にする（R1:65.0%、R2:72.0%、R3:72.5%）。[H29～R3平均69.4%]

※ 就職一次合格率を、毎年工科平均以上にする（R1:86.8% [工科平均86.3%]、R2:74.5% [工科平均82.1%]、R3:84.0% [工科平均85.4%]）。[H29～R3平均82.8% [工科平均84.9%]]

※ 就職希望者内定率を、令和6年度も100%を維持する（R1:100% [207名]、R2:100% [190名]、R3:100% [159名]）。[H29～R3平均100%]

※ 大学進学希望者実現度を、令和6年度には100%にする（R1:92.7% [38/41名]、R2:95.7% [45/47名]、R3:98.1% [53名]）。[H29～R3平均96%]

※ 3年後の離職率を、令和6年度[令和3度入社]には26.4%（5年間の平均）以下にする（R1 [H28入社]29.4%、R2 [H29入社]25.8%、R3 [H30入社]28.4%）。[H29～R3平均26.4%]

3 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 広報活動の充実を図り、志願者の安定的確保を図る。

ア 中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。

イ 地域の幼・中学校等との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。

ウ 中学卒業生が減少する中、入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。

※ 幼・中学校との連携を、令和6年度には6回以上にする（R1:7回、R2:2回、R3:1回）。[H29～R3平均4.3回]

※ 志願倍率を、毎年総合募集・工学系ともに1倍以上確保する（R1 [総合] 1.02倍 [工学] 1.46倍、R2 [総合] 0.91倍 [工学] 1.71倍、R3 [総合] 0.89倍 [工学] 0.94倍）。[H29～R3平均 [総合] 0.9倍 [工学] 1.3倍]

(2) 工業高校生対象の大会等へ参加し、全国大会出場と上位結果をめざす。

ア 旋盤・電気工事・電子回路組立などものづくり大会へ参加や、課題研究作品をコンテストに応募するなど、全国大会出場や入賞をめざす。

イ マイコンカーレース・ロボット相撲大会・パソコン甲子園等に参加し、全国大会出場や入賞をめざす。

※ 高校生ものづくり大会旋盤部門を、毎年近畿大会優勝・全国大会出場をめざす（R1近畿大会優勝・全国大会出場（9年ぶり）、R2コロナ禍で中止、R3近畿大会優勝・全国大会出場）。

※ 全工協会の高中生技術・アイデアコンテスト全国大会に課題研究作品を応募し、上位入賞をめざす（H30:2作品「優秀賞」「理事長特別賞」受賞、R1:2作品「佳作」、R2:1作品「佳作」、R3:1作品「理事長特別賞」）

(3) 工科高校のさらなる魅力づくりを推進するため、学校組織の改善を図る。

ア 五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。

イ 令和4年度の再編整備に向けて、校内PTを組織して先行する工科高校6校を参考に、計画の策定・運用方法の検討を進める。

4 校務の効率化と職場環境づくりの推進

(1) 校務の効率化

ア ICTを活用して、校務の効率化を図る。

※ 校務の効率化を、毎年1件以上図り、業務軽減につなげる (R1:2件[電話交換機の変更に伴う校内電話番号案内・SSC 会議室予約システムの設定・運用]、R2:2件[緊急連絡メール・SSC 教職員共有ファイルの設定・運用] R3:1件[欠席フォームの設定・運用])。

(2) 職場環境づくりの推進

ア 「より働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェック結果を踏まえて労働安全衛生委員会で議論を行い、改善策は図っていく。

イ 学校保健委員会、労働安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

※ ストレスチェック結果における「量的負担・仕事の負担リスク・総合リスク」を、毎年基準値 (8.7・100・100) より低く抑える (R1:8.5・95・97、R2:8.1・94・97、R3:8.8・104・104)。^[H29~R3平均8.4・96.5・98.3]

※ 学校教育自己診断(教員)の「職場での相談・人間関係」の肯定率を、令和6年度には65%以上にする (R1:53%、R2:56.6%、R3:66%)。^[H29~R3平均56.9%]

※ 在校等時間管理に努め、時間外勤務者のうち月80時間以上を令和6年度には一桁にする (R1:19名、R2:10名、R3:13名)。^[H29~R3平均16名]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月 実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>アンケート回収率 生徒 77.8 (92.1) % 保護者 47.6 (41.5) % 教員 43.7 (64.1) % (昨年度)</p> <p>○生徒</p> <p>昨年度に比べて、特に肯定率の増減があった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目 6「授業に意欲的に参加している」66.1%→76.2% (+10.1%) ・質問項目 7「実験や実習が興味深い」75.5%→87.9% (+12.4%) ・質問項目 9「自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い」30.0%→48.5% (+18.5%) ・質問項目 15「授業中はスマートフォンや携帯電話のマナーは守られていると思う」61.9%→72.7% (+10.8%) ・質問項目 18「服装や頭髪などのルール・マナーが守られていると思う」67.0%→78.1% (+11.1%) ・質問項目 20「命や人権の大切さについて学ぶ機会が多い」42.5%→61.0% (+18.5%) ・質問項目 21「社会のルール(交通安全・薬物乱用等)について学ぶ機会が多い」59.2%→71.9% (+12.7%) ・質問項目 26「集会では、きちんと話が聞いている」61.9%→71.9% (+10.0%) ・質問項目 27「地震や火災等の非常時の時の行動については、みんなよく理解していると思う」53.9%→70.4% (+16.5%) <p>本年度、特に肯定率が高い項目【学年別】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【1年】質問項目 7「実験や実習が興味深い」(92.5%) 【2年】質問項目 10「提出物は期限内に出している」(87.3%) 【3年】質問項目 10「提出物は期限内に出している」(89.6%) <p>○生徒の結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・41項目のうち、9項目で肯定的回答が大幅に上昇した。「授業に関する取り組み」、「学校生活でルールが守られているか」、「集会での態度」、「人権教育」「災害対応」がそれであった。 ・「自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い」が18.5%上昇しており、その理由としては、今年度より、新学習指導要領の本格実施が始まり、各教科・科目でPBLの導入や教材開発等を行ったからであると考え。 ・「地震や火災等の非常時の時の行動については、みんなよく理解していると思う」が16.5%上昇しており、その理由としては、例年2回予定している校内避難訓練が予定通り実施でき、また形式として火災・地震だけでなく、河川氾濫等の水害に対応した垂直避難訓練の実施、Jアラートに対応した避難訓練の実施ができたからであると考え。 <p>○保護者</p> <p>昨年度に比べて、特に肯定率の増減があった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目 14「文化祭や体育祭など、生徒会活動が活発である」61.7%→82.1% (+20.4%) ・質問項目 17「部活動や行事の際の子どもの帰宅時間は妥当である」70.8%→60.7% (-10.1%) ・質問項目 22「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」49.0%→72.0% (+23.0%) <p>本年度、特に肯定率が高い項目【学年別】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【1年】質問項目 14「文化祭や体育祭など、生徒会活動が活発である」(92.8%) 【2年】質問項目 2「淀工は他の学校にない特色があると思う」(88.6%) 【3年】質問項目 2「淀工は他の学校にない特色があると思う」(91.3%) 質問項目 3「資格や検定試験に熱心に取り組む学校である」(91.3%) <p>○保護者の結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27項目のうち、2項目で肯定的回答が大幅に上昇した。また1項目で大幅に減少した。 ・「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」が23.0%、「文化祭や体育祭など、生徒会活動が活発である」が20.4%それぞれ上昇した。 	<p>○第1回学校運営協議会 令和4年7月1日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実施している資格取得(一覧)や各資格の意味・用途等を、在校生に対してもっとPRしていけばよいのではないかと。 ②資格取得に係る高校生への補助金制度があれば良い。資格の使用具体例をあげてやれば無駄に資格を取る必要がなく、負担も減るのではないかと。 <p>○第2回学校運営協議会 令和4年11月30日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校HPでブログを作っても、存在を知らないと見てもらえないのではないかと。 ②学校HPで、受験生向けや部活などのカテゴリーに分けた方が良いのではないかと。 ③授業見学が2.3回/人とあり、ICTの活用方法が参考になったという意見があったが、その活用事例を研修で周知されたらどうか。 <p>○第3回学校運営協議会 令和5年2月22日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①淀工の強みである、就職だけではなく、進学もアピールした方がよい。 ②進路状況のページをHPのトップにもってくるだけでも効果があると思う。 ③学校見学では、生徒が主体で説明したり、ディスカッションの場を設けることも有効と思う。 ④工業をアピールするツールを増やすことが重要で、動画配信サービスでの動画や以前の「Be Professional」のような淀工版を生徒主体で作ってみるのも一つではないかと。 ⑤文化祭で卒業生のブースを設けるなどして、学校PRの貢献を同窓会として協力したい。 ⑥ブログの入り口を分けるなどが必要と思う。

<p>これらの理由としては、制限がありながらも体育祭・文化祭・授業公開・学校見学会等、保護者の皆様に来校いただき、生徒たちの自主的活動を見ていただくことができたからであるとする。</p> <p>・「部活動や行事の際の子どもの帰宅時間は妥当である」が10.1%減少した。その理由として、制限がありながらも活動が従前のように実施できているが、この2年間の制限がかかった活動とのギャップからではないかと考える。</p>	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	<p>(1)学力の定着と、授業改善 ア 「魅力ある授業」「わかる授業」の推進</p> <p>イ 英語の4技能指導による技術者の育成</p> <p>ウ 教員・保護者の授業見学や研究授業等による授業</p> <p>エ 家庭学習と学校図書館機能の充実</p> <p>(2)ものづくり教育による生徒育成 ア キャリア教育・職業教育の充実</p> <p>イ 資格取得への支援</p>	<p>(1) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。特に1年生は、外部学力調査による学力検査と結果の経年変化を確認し、その後の教科指導に生かす。</p> <p>・教育実践にICTを効果的に取り入れ、学びの深化を図る。</p> <p>・PBLを取り入れ、能動的な学習態度を養う。</p> <p>イ・全学年で英語学力調査を実施し、昨年度との4技能結果を比較し、成果と課題を分析し、英語教育の指導に生かす。</p> <p>ウ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員・保護者の授業見学、授業改善の取組みを進める。</p> <p>エ・家庭学習の定着とともに、学校図書館機能の充実(本の更新及び活用度)を図る。</p> <p>(2) ア・企業や大学等の連携を行い、授業・HR等においてキャリア・パスポートを活用したキャリア教育やデジタル化対応産業教育装置を活用し、職業教育の充実を図る。</p> <p>イ・様々な資格取得を組織的に進め、生徒の付加価値を高める。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「授業の工夫等」57%以上 [53.7%] <参考> 生徒の経年値学力の変化検証 入学時の教育産業の基礎力調査(国数英)の平均計210点以上[合計215.9点:国73.2点、数72.4点、英71.3点] ・学校教育自己診断「ICT機器を活用した授業」70%以上 [69.0%] ・学校教育自己診断「学校は、1人1台端末を効果的に活用している」65%以上[R4から新項目] ・学校教育自己診断「自分の考えをまとめ、発表する」35%以上 [30%]</p> <p>イ・前年度と今年度の英語学力調査の4技能向上比較 1年GTECトータルスコア460[448] 2,3年GTEC実施。4技能トータルは共に「A1.3」、スピーキングは共に「A1.3」 英検受検者数の増加 [5/21名]</p> <p>ウ・授業見学1人2回以上 [6月、11月授業見学週間で実施]</p> <p>エ・学校教育自己診断「家庭学習者の増加」22%以上 [19.1%] ・学校教育自己診断「図書館機能の充実」66%以上 [60.5%]</p> <p>(2) ア・インターンシップ参加者数:35名以上 [未実施] ・学校教育自己診断「実習授業満足度」5年平均75%以上を維持 [75.5%] イ・ジュニアマイスター:過去5年平均 [T1, G2.8, S6.4, B3]以上 [T0, G1, S9, B0]</p>	<p>(1) ア ・学校教育自己診断 61% 徐々に向上している。 (1年62.5%、2年57.5%、3年62.1%) (○) ・1年入学時の平均点205.0点/300点満点(△) (国語69.6点 数学67.5点 英語67.8点)</p> <p>・学校教育自己診断 76.8% ICTの効果的な取り入れが進んでいる。 (1年76.3%、2年82.1%、3年73.6%) (○) ・学校教育自己診断 59.3% さらに向上をめざす。 (1年80.0%、2年64.2%、3年38.9%) (△)</p> <p>・学校教育自己診断 48.5% さらに向上をめざす。 (1年55.0%、2年43.3%、3年46.7%) (◎)</p> <p>イ ・2年生 4技能トータル「A1.2」 スピーキング「A1.1」(△) ・3年生 工学系でGTECを実施。4技能トータルは共に「A1.3」、スピーキングは共に「A2.1」(○) ・第1回英検 準2級 2名合格/3名受験 3級 合格なし/1名受験 ・第2回英検 受験者なし ・第3回英検 2級 合格なし/2名受験 準2級 合格なし/1名受験</p> <p>ウ ・6月-2.3回/1人、11月-2.5回/1人 (○) ・研究授業6回実施 (○)</p> <p>エ ・学校教育自己診断 18.6% 生徒の意識改革を図る必要がある。 (1年18.8%、2年19.4%、3年18.2%) (△) ・学校教育自己診断 60.9% (1年64.5%、2年59.7%、3年59.6%) (△)</p> <p>(2) ア ・インターンシップ 32名 (○) ・学校教育自己診断 87.9% さらに充実を図る。 (1年92.6%、2年85.8%、3年85.5%) (◎)</p> <p>イ T:0名、G:0名、S:7名、B:0名 (△)</p>

<p>2 夢と志をもつ生徒手の育成</p>	<p>(1)豊かでたくましい人間性の育成 ア 人権教育の充実 イ 教育相談体制の充実 ウ マナー向上とルール厳守、遅刻件数や問題行動の防止・転退学率の減少</p> <p>エ 部活動の振興</p> <p>(2)生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実 イ 進路希望の実現 ウ 離職率調査の実施 エ 大学進学者に対する学習状況調査の実施</p>	<p>(1) ア・人権講演会や人権 HR を実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」教育を推進し、共生社会を学ぶ。 イ・支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を強化し、いじめ対応も含めた教員による相談対応の充実を図る。 ウ・学校生活におけるルールやマナーの徹底を教室掲示等をもって図る。</p> <p>・より丁寧な生徒指導により、遅刻件数の減少を図る。 ・集会時や日々の学校生活において啓発を行い、問題行動の防止に努める。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。</p> <p>エ・部活動加入を促進し、「部活動に係る活動方針」に則った効率的な活動を図り、活気ある高校生活を送れるよう、環境整備や安全対策の強化を図る。</p> <p>(2) ア・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路に関する指導の充実を図る。 ・就職一次合格率の向上を図る。</p> <p>イ・就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな就職指導を行う。 ・大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進学指導を行う。</p> <p>ウ・卒業3年後の離職率調査を継続し、就職指導に生かす。 エ・大学進学者への学習状況調査を継続実施し、進学指導に生かす。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権教育等の充実度」50%以上 [42.5%] イ・学校教育自己診断「いじめ相談対応」50%以上 [46.6%] ウ・学校教育自己診断「制服や頭髪等のルール・マナーを守る」70%以上 [67.0%] ・学校教育自己診断「授業のマナー(スマホ等)」65%以上 [61.9%]</p> <p>・遅刻件数：2,200件以下 [2739件] ・問題行動指導：件数一桁 [13件]</p> <p>・転退学率：2.0%以下 [1.8%]</p> <p>エ・部活動加入率：5年平均66%以上を維持 [67.4%]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」5年平均69%以上を維持 [72.5%] ・就職一次合格率：工科平均以上 [84.0%、工科平均85.4%] イ・就職希望者内定率：100% [就職100%] ・大学進学希望者実現度：100% [進学98.1%] ウ・離職率：26.0%以下 [28.4%、回収率100%] エ・大学進学者への調査、課題の分析と対応 [回収率51.4%(55/107)] ・課題⇒数Ⅲ・物理・英語 普通科に比べて、数学・物理は圧倒的に理解力に差がある。 ・優位性⇒資格取得、実技・専門科目の知識、レポート作成能力、CAD製図、情報関連知識 <参考：課題への対応> 工業科は、専門科目を25単位以上修得が必修であり、課題については選択科目や補習等で補っている。</p>	<p>(1) ア ・学校教育自己診断 61.0% さらに充実を図る。(1年56.6%、2年60.5%、3年65.3%) (◎) イ ・学校教育自己診断 52.0% (1年50.0%、2年56.7%、3年50.3%) (○) ウ ・学校教育自己診断 78.1% (1年83.8%、2年67.9%、3年80.3%) (○) ・学校教育自己診断 72.7% (1年75.0%、2年64.9%、3年76.2%) (○)</p> <p>・2833件 (△) ・12件18名 (△)</p> <p>・2.8% (転学13名・退学5名) (△)</p> <p>・全体67.0% さらに加入率アップをめざす。(1年68%・2年62%・3年70%) (○)</p> <p>(2) ア ・学校教育自己診断 79.0% (1年81.2%、2年77.7%、3年78.2%) (○) ・就職一次合格率：86.2% (119/138) (○) 工科全体平均91.2% (△) イ ・就職希望者内定率：100% (○) ・大学進学希望者実現度：98.0% (○) ウ ・30.2% [回収率 93.1%] (△) コロナの影響で離職率が上がったものと考える。 エ ・[回収率56.8% (63/111)] ・課題⇒数Ⅲ・物理・英語 普通科に比べて、数学・物理は圧倒的に理解力に差がある。 ・優位性⇒資格取得、実技・専門科目の知識、レポート作成能力、CAD製図、情報関連知識 ・その他⇒リモート授業に関して、時間が有効活用でき、対面との併用で理解しやすい。 ・課題について、教員と情報共有し、学力向上に向けて補習等を実施した。(○)</p>
-----------------------	--	---	--	--

<p>3 信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動と志願者確保 ア 広報活動の精査・充実</p> <p>イ 地域との連携と学校活性化</p> <p>ウ 志願者倍率の確保</p> <p>(2) 工業高校生対象の大会等への参加と結果 ア ものづくり大会等への参加と結果</p> <p>イ マイコン利用した大会への参加と結果</p> <p>(3) さらなる魅力づくりと学校組織の改善 ア 学校課題の対応と迅速な実行 イ 学校改編に向けた取組み</p>	<p>(1) ア・中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。</p> <p>イ・地域の幼・中学校との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。</p> <p>ウ・様々な機会を捉えて学校 PR を行い、入学者選抜の志願者を確保する。</p> <p>(2) ア・学習成果の場として、ものづくり大会やコンテスト等へ参加し、上位入賞をめざす。</p> <p>イ・マイコンを利用したマイコンカーレース・ロボット相撲・パソコン甲子園等へ参加し、上位入賞をめざす。</p> <p>(3) ア・五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。</p> <p>イ・工科高校のさらなる魅力づくり・学習内容の充実を推進するため、PT を組織して今後の検討に入る。</p>	<p>(1) ア・出前授業 [7校]、学校説明会 [18件] の精査・充実</p> <p>イ・幼・中学校との連携：5回以上 [幼1回]</p> <p>ウ・志願者倍率：総合・工学とも1倍以上 [[全体]・0.90倍 [総合]・0.89倍、[工学]・0.94倍]</p> <p>(2) ア・ものづくり大会やコンテスト等の成果 [旋盤作業部門⇒近畿大会1・2位⇒全国大会出場 高校生技術・アイデアコンテスト全国大会⇒理事長特別賞]</p> <p>イ・マイコンカー、ロボット相撲・パソコン甲子園等の成果 [高校生マイコンカーラリー：全国大会出場 パソコン甲子園：プログラミング部門初出場 ETロボコン大会出場]</p> <p>(3) ア・五役会での課題解決への対応回数と内容を示す</p> <p>イ・学校改革への取組み：再編整備に関連する会議の実施 校内 PT の各回数と実績を示す [5回]</p>	<p>(1) ア ・1月時点 出前授業3校・学校説明会18件 随時学校見学会18件 (○)</p> <p>イ ・幼1回、中学1回 (△)</p> <p>ウ ・HPのブログ更新 114回 さらに本校の魅力を発信する。(◎) ・志願者倍率：(○) 全体 224名/募集210名 1.07倍 総合 192名/募集175名 1.10倍 工学 32名/募集35名 0.91倍</p> <p>(2) ア ・旋盤作業部門 大阪大会 優勝 近畿大会 第4位 ・溶接部門 大阪大会ビギナー部門 第2・3位 ・高校生アイデア技術コンテスト 佳作 (○)</p> <p>イ ・マイコンカー 全国大会 出場 ・ロボット相撲 大阪大会 自立型 優勝・準優勝 全国大会 出場 ・パソコン甲子園 モバイル部門 本選出場 (◎)</p> <p>(3) ア ・対応回数 20回 ・運営委員会の回数を半減。 ・時間外の電話対応を留守番電話への切り替え。 ・学校説明会の在り方を検討。行事の開催時期の検討。生徒の母校訪問を検討。出席簿の ICT 化。等 (○)</p> <p>イ ・6回開催。 1年生の学習内容の整理及び2・3年生の準備。 特に1年生のPBLについて、検証しさらに改善していく。(○)</p>
<p>4 校務の効率化と職場環境づくりの推進</p>	<p>(1) 校務の効率化 ア ICT を活用した校務の効率化</p> <p>(2) 職場環境づくりの推進 ア 「より働きやすい職場環境づくり」の推進</p> <p>イ 生徒・教職員の健康管理体制の充実</p>	<p>(1) ア・ICT を活用した校務の効率化を図る。</p> <p>(2) ア・「より働きやすい職場環境づくり」の推進を図る。</p> <p>イ・部活動や働き改革を踏まえ、時間外勤務時間の縮減を図る。</p>	<p>(1) ア・効率化：2件以上 [1件：欠席連絡フォーム]</p> <p>(2) ア・ストレスチェックの「量的負担・仕事の負担リスク・総合リスク」：基準値 [8.7・100・100] 以下 [8.8・104・104] ・学校教育自己診断「職場での相談・人間関係」平均57%以上 [66%]</p> <p>イ・時間外勤務月80時間以上の縮減：12名以下 [13名]</p>	<p>(1) ア 2件 ・学校教育自己診断を Google フォームで実施。 ・保護者向け案内のデジタル化。 さらに校務の効率化に向けて取り組む。(○)</p> <p>(2) ア・「量的負担・量コントロール健康リスク・総合リスク」：[8.7・98・91] (○) ・学校教育自己診断 61.3% (△)</p> <p>イ・労働安全衛生委員会：月1回実施 (○) 時間外勤務時間： 80時間以上19名 (△)</p>